

第6回 生駒市景観形成基本計画策定懇話会 景観デザイン分科会 会議録

1. 日時 平成25年7月3日(水) 18時00分～21時00分
2. 場所 生駒市役所 402会議室
3. 参加者 久座長、下村氏、嘉名氏
4. 欠席者 なし
5. 事務局 山本部長、中井課長、高谷係長、松田主査、阪本主任、山下
(以上、みどり景観課)
坂井、絹原、依藤(株式会社地域計画建築研究所)
6. 会議公開 公開
7. 傍聴者数 1名
8. 案件
 - (1)生駒らしい景観のパターンについて
 - 「パターンの関係性についての表」は、数量化Ⅲ類で似たもの同士の関係を明らかにするようなアプローチもある。
 - 「5 見通す眺望」の「線路上の見通し」は「先頭車両からの見通し」とした方が良い。
 - 「11 曲がった道」のシークエンスの写真は、一つ目印となるもの(樹木など)が連続する写真それぞれに映っている方が変化の様子が分かりやすい。「23 期待感」の写真も同様。
 - 「22 人の尺度」の右下の斜面地の写真は、キャプションの意図が分かりにくい。敷地内でも人の尺度にあわせて分節化するとした方が良い。路地はそもそも人の尺度できており、親密感が沸くという内容を文章中に盛り込んでどうか。
 - 「30 移ろいの風景」で植栽の種類をコラムに入れているが、種類ではなく、樹形の特徴や、季節による葉の色合いの特徴を踏まえた選び方など、後ろの建物に合うかどうかの視点を中心にして書く方が適切。周辺の樹種を調べて自分で植栽を考えた内容もどこかに入れてほしい。芝生を挙げるよりも地被類の方が、手間がかからずよいのではないか。
 - 全体的に色彩の話があまり見られない。景観計画では色彩に重点を置いており、整合を図るためにも、例えば「14 連歌式」などのパターン内に加えるなど充実が必要。

- 写真の充実、言葉磨きの作業は随時行っていく。スケッチも最終的にタッチを合わせるなど精査する。

(2) パターンを用いたデザイン（ランゲージ）について

- 全体的にデザインの詳細まで書きすぎている。パターンを使ってどう景観を読みとるのか、それをどう組み合わせていくのか、パターンの使い方の説明に重点を置くべき。
- パターンに関係のない話を盛り込むと分かりにくくなるので避けるべき。
- 例えば、その場所が元々持っているパターン、道路などの基盤整備で生まれたパターンと、周辺の建物等と同じパターンを使うことで統一感が増すパターン、質を高め深みを増すために付け加えるパターンなどがある。
- 「(1) デザインの方法」でそのあたりの手順をしっかりと解説することで改善する可能性がある。
- 「中高層マンションでのデザインの例」はスケッチが中層になっているので、中高層を対象とした生駒山に対する眺望への配慮、分節化などを主にした方が分かりやすい。
- 読み取りのスケッチとデザインのスケッチが、スケールも方向も違うので、何をどう読み解いてデザインに展開されたかが分かりにくい。
- デザインの例を増やすよりも内容を絞って提示する。「住宅地」「中高層マンション」を基本に、「ロードサイド店舗」を可能なら加える程度で十分。
- 1/2, 500 や 1/500 などのスケール感から読み解くことの重要性もうたっておきたい。平面図なども効果的に用いてはどうか。

(3) 計画の全体構成案について

- 第1章～3章までは問題ない。
- 第4章と5章について、啓発・支援していくという協働で取り組む内容と、規制や公共事業などの行政主導の内容とで分けて整理したら分かりやすく、景観計画との関係も明確になる。
- 第5章で、景観形成のしくみづくりとして、審議会や景観アドバイザー等の体制整備を盛り込んではどうか。
- 基本計画と景観計画の関係は「規制」の方針・施策などできちんと触れておくべき。

(4) その他

- 次回は7月29日19時から。全体の素案を検討する予定。

以上